

平成28年度 学校評価における自己評価について（報告）

認定こども園

鳥取第二幼稚園・おひさま保育園

1. 学校の教育目標

「生きる力があふれる子ども」の育成

～明るく・やさしく・たくましく～

- ・自ら目標を持ってたくましく活動する子ども
- ・友達の気持ちを思いやり、協力しあって遊べる子ども
- ・素直に感動する心を持ち、感動を想像豊かに表現できる子ども
- ・豊かな生活経験の中から、物事を知的に理解し判断できる子ども
- ・豊かな感性を持ち、生きる力を身に付けた子ども

2. 学校評価の具体的な目標や計画

◆今年度の研究テーマ

「主体性のある子どもを育てる遊びや生活を考える」

- ・好奇心や探究心を持ち、五感を通して感じ遊ぶ保育
- ・遊びの中で工夫したり、考え学び合う保育
- ・友達や保育教諭と心を通わせ、かかわりや表現することを楽しむ保育
- ・人の話をしっかり聞き、考えて行動しようとする保育

○教育の重点 健康な心と体づくり

- ・週3回の朝のランニング「らんらんタイム」と体操
- ・週1回の顎を鍛える「かみかみタイム」
- ・食育活動（ぱくぱく農園で野菜栽培をし、育てた野菜を調理したり、食することを楽しむ）

評価項目	結果	理由
(1) 人権保育	A	・集団生活の場で一人一人が自分らしさを発揮し、仲間と共に育ち合うことのできる学級・園経営を目指した。保護者アンケートでも「園はお子様を大切に、愛情と誠意をもって対応している」の項目に対して高い評価をいただいた。
(2) 指導の強化(運動)	A	・週三回のらんらんタイムも園生活の場に定着してきた。乳児部も発達段階を考慮し、可能な時間に走る経験をしてきた。後半は、らんらんタイムの場である校庭が工事により使用できなかった。そのため、園内で柔軟体操やボールを使った活動をするなど運動遊びを工夫してきた。

評価項目	結果	理由
(3) 特色教育	B	<ul style="list-style-type: none"> • 保育の中にリトミックを位置づけているが、職員の意識や指導力に個人差があり、自己研鑽や指導の園内研修の必要性を感じた。 • 毎月の歌を決め、全園児が月の歌を楽しんできた。全園児が同じ歌を歌えることは人と人とを繋げることにも効果があった。
(4) 教育課程・指導	B	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年度「主体性のある子ども」に育てるための期案の手入れを行い、研究テーマの視点と併せて教育保育に取り組んできた。研究会では、田の字法を使って討議をしたが、主体性のある姿やそのための保育環境や援助への理解に、保育教諭の捉えが異なっており、研究の仕方に課題が残った。
(5) 特別支援教育	A	<ul style="list-style-type: none"> • 年度当初に支援が必要な園児について、一人ずつに対して学年での支援会議を行い、支援の方向性について話し合ったことは良かった。また、加配の先生方の話し合いの記録を全担任に回覧した。これにより、全職員が障がい児一人一人の困り感や望ましい援助の在り方を共有することができた。 • 専門機関と保護者の協力を得て、小学校への移行支援を丁寧に行うことができ、園児が安心して就学することとなった。
(6) 健康・安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> • 「げんきっこだより」で園児の健康状況（主に感染症）をこまめに伝えてきた。手洗い・うがい・手消毒を園全体で励行し、室内環境（換気・室温調整）に留意したところ、特に冬の感染症の広がりを防ぐことができた。 • 毎月、避難訓練と交通安全指導等の安全指導を行ってきたが、10月の鳥取県中部地震では、保育教諭の指示と連携によって、全員怪我もなく避難することができ、訓練の成果と重要性を感じた。
(7) 子育て支援	A	<ul style="list-style-type: none"> • 園開放では内容を見ながら、入れ替わり多くの来園者があり、活動を楽しんでもらった。子育ての相談を受けることは少なかったが、園開放以外の日にすすろーム利用の方が多く、親同士や職員との会話の場となった。 • 2歳児を子育て支援で受け入れている。こども園の中で基本的な生活習慣を身に付けたり、人と関わる力を培っていく成長した姿が見られ、2歳児保育の良さを実感した。

評価項目	結果	理由
(8) 組織運営・園運営	B	<ul style="list-style-type: none"> • 乳児部と幼児部の保育活動の理解や職員同士の連携を目的に合同職員会を行ってきたが、勤務体制の違いもあり全員がそろえることが難しいことがあった。お互いのことが周知できるよう再確認していきたい。 • 園務分掌により、全職員がそれぞれに役割を担当し、責任を持って実行していった。担当だけでは難しい時は、協力しながら進めていくことができた。
(9) 領域研究	A	<ul style="list-style-type: none"> • 環境・健康・言葉の3つの領域に分かれて研究を進めてきた。領域ごとに行っている取り組みは充実していたが、今年度も園の取り組みをもっと保護者へPRする工夫が必要であった。 • 毎月のあいさつ運動週間の啓発により、園と保護者、保護者同士のあいさつが活発になった。朝のあいさつが中心のため、いろいろな場面（時間）でも元気なあいさつができるように環境作りや指導をしていきたい。
(10) 地域との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> • 行事案内では、地域の方においでいただき園の活動の様子を見ていただくことができた。また、今年も引き続き西中校区PWWの会、醇風校区幼保小連絡協議会に参加し、地域の方や中学校、小学校の校長先生や他園の園長先生との交流があり、地域の子どもの情報交換や教育について、共通理解することができた。
(11) PTA 活動	A	<ul style="list-style-type: none"> • 今年も乳児部の保護者も各部の行事の手伝いに参加していただいた。就労されている保護者の方が多くなっているため、部会のもち方（内容）について考えていきたい。 • 「親児の会」「つぐみの会」「マミーズの会」が活発に活動を展開してくださった。行事を盛り上げながら、保護者同士の関わりも深まり、園生活を楽しんでいただくことへ繋がった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園として3年目を迎えた。子ども達の発達段階をふまえた安全な生活の保障、基本的生活習慣を身に付け、園の特色をいかした教育課程にそって活動する中で、年齢の育ちを繋げていく縦の連携がより丁寧にできるようになった。また、乳児部と幼児部の園児の生活や保育教諭の勤務体制をお互い理解しながら、協力して園運営をしていくことがスムーズになってきた。 ・「生きる力があふれる子ども」の育成を教育目標に、研究テーマを「主体性のある子どもを育てる遊びや生活を考える」掲げて取り組んできた。研究保育を通してお互いの保育を見合い、研究討議を重ねてきた。その取り組みの中で、子ども達の確かな成長を感じることができた。同時に、課題も上がったことにより、次年度に繋げて一層研究を深めていきたい。

◎「3. 4」の評価結果

A	十分達成された。
B	達成されている。
C	取り組まれているが成果が十分ではない。
D	取り組みが不十分である。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
組織運営・園運営 (園行事の運営について)	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する鳥取城北高等学校の校舎工事に伴い、例年行っているバザー・運動会・音楽発表会、保育参観等の行事がこれまでの運営の仕方では難しい。外部施設での開催や内容を検討している。充実した教育保育活動を保障し、保護者の方の理解と協力を得ながら、新しい取り組みに挑戦していきたいと考えている。
特色教育	<ul style="list-style-type: none"> ・園の音楽教育の基本であるリトミック活動では、教職員のリトミックへの理解や指導力に個人差が見られる。音楽教室の先生を講師として園内研修をしたり、園外の研修に参加する機会をつくっていきたい。 また、乳児部で行っていた「わらべうた」の時間を十分もつことができなかった。外部講師を確保するなどして、活動の時間を増やしていきたい。